

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- 1 一括質問一括答弁方式
- 2 一問一答方式

質問件名 ひきこもりの状態にある人を地域の中で支えるために

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

内閣府の調査では15歳から34歳の若者のうち、ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出するものを含む広義の引きこもりは69.6万人と推計されています。また厚生労働省では、仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず6カ月以上続けて自宅に引きこもっている状態の人がいる世帯は約26万世帯としています。小平市子ども・若者の意識実態調査では、16歳以上29歳以下の若者で外出頻度が少ないいわゆる引きこもり状態にある人が少なくとも3%以上いるという結果が出ています。

現在市が窓口となつてつないでいる東京都ひきこもりサポートネットは対象年齢が15歳から34歳の若者に限られています。ひきこもり状態が長期化すること、高齢化も問題になっていることや、背景にいじめの問題、介護の問題、障害を抱えているなどさまざまな要因が複雑に絡み合っていることが多いことから、ひきこもり状態から抜け出したいと思っても当事者や家族の力だけでは難しく、サポートが必要です。地域の中で支援する仕組みをつくるために以下質問します。

- 1、小平市子ども・若者の意識・実態調査で、外出の頻度を質問した理由と、結果に対するご見解、またこの結果を今後にどうかしていくことが考えられるかお示ください。
- 2、2014年6月に始まった東京都ひきこもりサポートネットが行う家庭への訪問相談へつないだ件数は何件ありますか。そこでどのような支援を受けていますか。またケースごとの状況を把握していますか。
- 3、ひきこもりの長期化や高齢化が社会的な問題となっていますが、市としてのご見解は。また、30歳以上の方を対象にした実態調査を行っていますか。どのくらいの数の方がひきこもりの状態にありますか。
- 4、ひきこもり状態から社会の中に出ていくまでにはさまざまな支援が必要です。居場所づくりや見守りなど地域でのサポートも必要だと考えますが、市のご見解は。
- 5、今年度予定されている就労サポート事業はひきこもり状態から抜け出した方も対象になると思いますが、どのような計画で行いますか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

平成29年5月29日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 さとう 悦子

受付番号【 】

27	26	25	24